

平成29年8月定例市議会

行政報告要旨

総社市

本日、8月定例会市議会を招集しましたところ、議員の皆様におかれましては、お繰り合わせご出席いただき、誠にありがとうございます。

朝夕、秋の訪れを感じることも多くなりましたが、まだまだ暑い日が続いています。皆様にはご自愛いただき、今議会も、未来ある総社の発展のために精一杯頑張っていきますので、どうぞよろしく申し上げます。

はじめに、議員及び市民の皆様には、一言お礼を申し上げます。7月20日から8月17日まで、池田分館を皮切りに、市内7会場で、ガラス張り公開市長室を開催したところ、580人もの方にご参加いただきました。また議員の皆様には、各会場にオブザーバーとしてご出席くださり、大変、ありがとうございました。いただいたご意見ご提言は、今後の市政運営に活かしていきますが、改めて、地域ごとに抱える課題が異なることを再認識しました。今一度、地域の弱い部分に目を向けて、勇気を持って「地域改革」に踏み込まなければならないと、気持ちを新たにしたところです。

1) 全国屈指の福祉先駆都市の実現に向けて

それではまず、「全国屈指の福祉先駆都市」実現に向けた取組みについてご報告させていただきます。

(障がい者支援)

7月9日に開催した「障がい者千人雇用事業1,000人達成記念フォーラム」には、議員の皆様をはじめ、多くの方にご出席いただき、ひとつの大きな区切りを迎えることができました。この成果に対し、厚生労働省職業安定局長から感謝状をいただき、先月、荒木議長とともに、厚生労働省を訪問した際にも、蒲原^{かもはら}事務次官を始め、多くの方から、総社市独自の施策について、大変高い評価をいただきました。

しかし、営利目的の悪質な就労施設等が、全国的に問題となる中、総社市では、8月17日に、市内に9つあるA型事業所を集め、障がい者の方の雇用の確保や、法令順守をお願いしました。また、障がい者の雇用の現状を、国や県に伝えるとともに、事業所と共同歩調をとっていきたいと思います。

さらに、これまで行ってきた福祉・教育・交通・災害支援等の総社流の独自施策を、市内外に発信するためのフォーラムを開催するとともに、障がい者全体の指針となる、新たな大綱を、12月議会にも議員の皆様にお示しできるよう準備を進めているところです。総社市がセーフティネットとなり、雇用環境の充実を含めた、生活の質の向上や、終の棲家等の課題にまでしっかりサポートできる体制を整え、新しいステージへ進んでまいります。

(健康インセンティブ事業)

次に、先の議会でも述べましたが、来年4月から、「歩くことで健康づくり」をテーマに、新しい健康インセンティブ事業を実施することとし、本議会に関連予算を計上しています。歩くことを習慣化し、健康に対する意識付けを行うことで、健康寿命の延伸、及び医療費の抑制を図ります。さらに、歩いた分だけ貯まったポイントを、地域商品券に交換し、市内の商店や飲食店で使用することで消費を促し、地域経済の活性化や、にぎわいの創出につなげていく仕組みを構築し

ていきます。

また健康関連事業として、高梁川河川敷、総社駅周辺の中心部及びサンロード吉備路周辺の3箇所に、ウォーキングやジョギングのできる3kmコースを整備します。総社駅周辺コースには、100mごとに、地域づくり協議会が、それぞれにデザインした石板^{せきばん}を設置し、サンロード吉備路内には、コインロッカーや更衣室などを整備し、温泉と併せた利用を促進するなど、外出が楽しくなるような、環境整備を行うこととしています。

(待機児童ゼロ対策)

待機児童ゼロ対策については、今年4月から、一旦は待機児童ゼロを達成しました。しかし、保育需要の高まりとともに、8月1日現在、0歳児2人が待機している状況です。先の議会で、「保育士支援金」について、議決いただきましたが、さらに、保育士の子どもへの優先入所等、保育士の確保対策を講じ、来年度から、幼稚園での早朝預かり保育も実施していきます。

また、放課後児童クラブにおける待機児童については、現在、総社中央小学校で、50名の定員に対し67名が在籍し、2・3年生は週1回の欠席ローテーションを実施し、5名が近隣の施設に広域入所している状況です。このことから、施設の増設を本議会に予算計上し、来年度から定員を30名増員し、待機児童を解消させます。人口が右肩上がりに増加している現状に、歯止めをかけることなく、引き続き、子育てがしやすい環境の整備や、働きたい意欲をもつ家庭を応援していきます。

2) グランドデザイン改革について

続いて、グランドデザイン改革の進捗状況についてご報告します。

(県大周辺、LRT及び南北道整備)

将来のまちを描いていくうえで、重要な指針となる立地適正化計画の策定状況ですが、市街化区域と地域拠点、及び周辺地域の均衡ある発展を目指して、交通、防災、商工観光、

文化及び福祉分野とも連携を深めています。その中で、服部駅を含めた県立大学周辺を、「歩いて暮らせる生活圏を持った拠点」として描いていきます。6月30日には、県大周辺整備等について、荒木議長とともに、岡山県の佐藤副知事に要望し、前向きな姿勢を示されました。引き続き、県と連携し、進めてまいります。また、グランドデザインを、描いていくうえで、重要なパーツとなる国道180号バイパス整備や高梁川改修事業等についても、中国地方整備局や国土交通省へ、直接要望してきたところです。

JR吉備線のLRT化については、議員及び市民の皆様へお示しすべく、今年度中に、岡山市、及びJR西日本と3者で「たたき台」を作成することとしています。

南北道（福井支線3467号道（泉への結節道）、刑部三須線（東総社中原線～総社駅前線）、西山～県道総社足守線、上原富原線（^{かみこうずえ}県道上高末総社線～旧県道））の整備についても、地元のご協力や、関係機関との調整を図りながら、事業着手したところであり、グランドデザイン改革が、着実

に、現実味を帯びてきています。

(国の動向)

一方、国においては、土地利用のあり方が活発に議論されており、まさに変革の時代を迎えようとしています。私も全国市長会の経済委員長として、国の動向をいち早く察知でき、このイニシアチブを最大限に生かしていきたいと思えます。先月には、石井国土交通大臣及び、磯崎^{いそざき}農林水産副大臣に要望を行ってまいりました。今後は、森林環境税の創設等、最前線で検討されている全国的な課題について、岡山県市長会でも議論が始まってきますが、何より、総社市にとって、何が重要かを慎重に見極め、議会の皆様とも緊密な連絡体制をとりながら、旗振り役を務めてまいります。

また明日、22日には、波留^{はる}中国経済産業局長が来総し、我々やウィングバレイ12社の代表と意見交換を行い、その後、岡山総社インターチェンジ周辺を視察されますので、地域経済の現状と課題について、熱く議論を交わしたいと思います。

(空き家対策)

また、今年度からスタートした、市内の空き家所有者と、居住希望者とをマッチングする「総社市定住空き家百選制度」は、現在までのところ、所有者から30件以上の相談や登録があり、また今年度に入り、移住の相談も75件を数え、住みやすい総社の認知度が、確実に高まっていると実感します。

少子高齢化が進む中で、空き家問題は、全国的に深刻化しており、総社市も例外ではなく、抜本的な対策を講じる必要があります。国においては、8月31日に、全国空き家対策推進協議会を立ち上げることとしており、私が会長に就任することになりました。この協議会において、専門的な意見や、全国の自治体での取組みを共有しながら、ピンチをチャンスに変えるべく、総社市の人口増施策に生かしていきたいと考えています。

3) 被災地支援について

次に、総社市では、自主防災組織率の向上や、組織の育成に努め、民間団体等とも、積極的に災害応援協定を締結してきました。非常食等、備蓄品については、現在、常盤公園と総社中学校に備蓄倉庫がありますが、今後、十分な量を確保し、他の地区にも備蓄品を配備することにより、分散備蓄を推進し、災害に対する備えを更に強化していきます。土砂災害等の危険箇所の把握にも努め、日頃から、見回りを含めた道路パトロールを行う等、防災力を高めていきます。また、議員の皆様のご理解とご協力のもと、「総社市大規模災害被災地支援に関する条例」に基づき、全国の被災地へ真っ先に駆けつけ、支援を行ってまいりました。こうした取組みを行うことで、職員及び市民の、防災に対する意識や取組みも格段にあがっていると自負しており、何より市民の安全安心を第一に考え、総社市の防災体制を最優先に取り組んでいきます。

先月には、記録的な大雨により、最も被害の大きかった

福岡県朝倉市の被災者を支援するため、NPO法人ピーク・エイド及びAMD Aと合同で、7月6日から3回に渡り職員を派遣し、被災者に寄り添った支援活動を行いました。私も被災地に赴き、森田朝倉市長とお会いし、有効な支援ができたと感じました。

また、災害を忘れない取組みとして、8月8日から、私とともに市内4中学校の生徒17人が仙台市を訪れ、今なお生々しく残る震災の爪あとを見聞し、貴重な経験を積みました。9月4日から9日の期間には、東京都千代田区にある三井住友銀行において、熊本地震での、テント村における支援活動を、全国に発信します。初日に開かれる、トークセッションでは、実際にテント村を経験した、熊本県益城町の町民の方や、野口健さんとともに、避難所での、テントの有用性について、語りつくしたいと思います。

また、先ごろ、AMD Aグループの菅波代表と、岡山経済同友会の松田代表幹事が、ジュネーブにある国際連合、及びWHOを訪れ、避難所に入りきれなかった被災者を、受け

入れる自治体を作るべきとの提言を受けました。こうした国際的な議論を踏まえれば、被災者の居住環境を支援することは、我々に課せられた使命であると考え、「総社市大規模災害被災者の受入れに関する条例」を今議会に上程しています。今後、予想される南海トラフ地震クラスの大規模災害が発生した際、総社市に甚大な被害がある場合は、市民の安全を最優先していきます。その上で、他の自治体の被災者を、市内の空き家等で受入れることは、災害を共に乗り切っていく中で、重要だと考えましたので、慎重なご審議の程よろしくをお願いします。

(市民へのお知らせ・お願い)

続きまして3点、市民の皆様へお知らせとお願いをさせていただきます。

(1) 赤米フェスタ2017について

まず、昨年大きな反響をいただき、大成功を収めた赤米

フェスタを、今年も9月11日から17日までの1週間、開催します。期間中は備中国分寺を中心に、ライトアップするとともに、16日土曜日には、相川七瀬さん、加藤登紀子さん、中村あゆみさんなどによる「ヒカリノミ・コンサート」を行います。チケットとなる赤米フェスタ2017の手ぬぐいは市役所玄関、商工観光課、中央公民館において1枚1,000円で好評発売中です。歴史と文化の香る吉備路にお越しいただき、赤い稲穂の輝く豪華なステージを、ぜひ皆様でお楽しみください。

(2) 小学校ライスカレーについて

続いて2点目、地域ごとの思いがあふれる小学校ライスカレーですが、昨年12月から現在まで、総社・常盤・山手・神在・秦・池田の計6種類の小学校ライスカレーを発売し、8月20日現在、あわせて27,245個を販売しています。今後は、山田、清音、昭和、維新の小学校カレーを順次発売していく予定ですので、どうぞご期待ください。

(3) チュッピーウォーターについて

3点目、6月1日から発売した「チュッピーウォーター」ですが、8月20日現在、22,748本を売り上げる人気商品となっています。総社のおいしい水と、ふるさとの小学校ライスカレーをご賞味いただき、市外のご親戚や、お友達にも宣伝していただきたいと思っておりますので、ぜひ応援の程よろしくお願いします。

(6月議会での検討事項について)

ここで、先の6月議会での検討事項としたものにつきまして、その結果をご報告いたします。

まず、三宅議員から長期の財政見通しを策定してはどうかとのご質問ですが、今年12月に公表する予定で準備を進めているところです。

次に、笠原議員から、年間5,000円を支給している「いきいきチケット」の増額についてのご質問ですが、平成29年度から年間10,000円とすることとし、本議会に

補正予算を計上しています。議決の後、増額分のチケットを10月に送付する予定としています。

最後に、小西利一議員、岡崎議員、西森議員から、有害鳥獣駆除について、ご質問をいただきました。有害鳥獣による農作物被害は、全国市長会でも議題となっており、経済委員長として農林水産省に要望してきたところですので、その捕獲報奨金について、増額することとし、本議会に補正予算を計上しています。また、ジャンボタニシの駆除対策については、支援策を制度化し、来年度から実施していきたいと考えています。

以上、本議会は9月の改選を控え、現体制での最後の議会となりますが、市民から「この市政は何か変えてくれる。」という期待と信頼を得ることができるよう、切れ目なく、尽力してまいります。依然厳しい財政状況が続いていますが、全国屈指の福祉文化先駆都市の実現及びグランドデザイン改革を標榜していくうえで、財政調整基金等に対する国の

動向を迅速に把握し、議員の皆様と素早く情報共有したうえで、財政運営の新たなあり方についても、ご相談してまいりたいと思いますので、より一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます、私からの行政報告とさせていただきます。